

千葉大学画像工学同窓会 中部支部発足記念セミナー 要旨

印刷メディア産業の動向

国際印刷大学校 木下堯博

1, はじめに 1956年3月、千葉大学工学部工業化学科印刷専攻を卒業し、同年4月、東京から名古屋市立工芸高校に着任し、1968年3月まで12年間、印刷科で教鞭をとっていた。その間に日本印刷学会中部支部（名古屋市）の理事、本部理事、印刷雑誌編集参与委員など印刷教育及び印刷産業の発展のための対外的活動を行ってきた。1968年4月より、印刷メディアのアジアに於ける拠点の構想があった九州産業大学（福岡市）に転出し、西部支部（大阪市）の理事として活動した。2000年3月までの32年間（内、全学の役職12年間）、約5万人以上の若者に印刷の重要性を教育し、国際印刷大学校（東京都）の創設など世界各国との交流も90回以上に及んだ。2015年、中部支部が廃部となり、新しく2017年に国際印刷情報メディア学会（会長：名城大学名誉教授工博村瀬勝彦氏、事務局；名古屋市工業研究所）を設立した。このセミナーでは印刷メディア産業の動向と題し、第1報の印刷雑誌（2018年7月号）、第2報の印刷センター（2018年6月号）と2017年の印刷メディア教育の進展（第1報～第7報）を中心にPPTで報告する。

2, 印刷・同関連業 2017年（平成29年）工業統計速報（従業員4人以上）の印刷同関連業の出荷額は5兆554億円（前年比5.6%減）となった。印刷メディア産業は人口増とGDPの拡大により、1991年に8兆9千億円に成長したが、それ以降は減少が続いている。GDPに対する割合も同年の1.8%から2017年には0.93%に減少した。2020年にGDPを600兆円との目標があるが、現在の印刷同関連業の出荷額を維持しても0.83%へ減少する。又、人材供給面から印刷プロパーの卒業生（印刷工学卒）が高等教育から得られず、海外に依存せざるを得ない状況にある。印刷企業でのインターンシップのプログラムを定着させ、関連部門の卒業生を採用し、養成、定着させることが必要である。学会活動はそれらをサポート可能なプログラムを構築し、AI,IoTにより生産性を高め、新しい分野へ事業展開をサポートするためのイノベーションソフトを構築していくことが使命である。

3, 印刷教育機関 日本での印刷及び関連の高等教育機関は無くなり、アジア（韓、中、台）での同機関（特に韓国の釜慶大学校）との交流を活性化させる必要があり、産学交流で印刷分野の革新的人材交流の構築が急がれる。日本商工会議所が専門的・技術的分野の外国人受け入れに関する意見書を関係省庁に2018年2月に要望した。従来までの単純労働者と高度な技術を持った専門職との中間技能人材のニーズが高いことが調査により判明し、新しく中間技能人材を海外から求めるための法整備が本年度中に完成すると思われる。

4, まとめ 千葉大学画像工学（印刷、写真、画像系）の同窓会は100年の歴史と伝統があり、これらの問題解決に他団体とも協力して同窓の皆さんと一体となって取り組むことが大切である。千葉大学画像工学同窓会中部支部の設立のお祝いと今後のご活躍をお祈り致します。 連絡先；kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp （2018年7月10日）